

はじめての

ブロンズ
対応版

児童英検



編集協力:財団法人 日本英語検定協会
問題制作:笠木えりあ・牧 菜穂

はじめての**児童英検** ブロンズ対応版

もくじ	2
はじめに	4

児童英検「ブロンズ」受験に向けて

1. 英語教室でのとりくみについて
2. 家庭でのとりくみについて

このドリルを児童英検に役立てるには

1. 環境の整えかた
2. 「たんごじてん」の活用のしかた
3. 「会話じてん」の活用のしかた
4. 練習問題の活用のしかた

も

く

じ

たんごじてん 1	たべもの①	10
たんごじてん 2	たべもの②	11
たんごじてん 3	いろ・かず・かたち	12
たんごじてん 4	どうぶつ	13
たんごじてん 5	もちもの	14
たんごじてん 6	まち・のりもの	15
たんごじてん 7	しぜん	16
たんごじてん 8	かぞく・からだ	17
たんごじてん 9	ようふく	18
たんごじてん 10	いえ・きょうしつ	19

たんごじてん11	しょくぎょう	20
たんごじてん12	どうし①	21
たんごじてん13	どうし②	22
たんごじてん14	どうし③	23
たんごじてん15	けいようし	24
会話じてん1	あいさつ	25
会話じてん2	しょうかい・せつめい	26
会話じてん3	へんじのしかた①	27
会話じてん4	へんじのしかた②	28
会話じてん5	おねがいなど	29

問題1	絵にあう文は?	30
問題2	Yesか? Noか?	37
問題3	スリーヒントクイズ	44
問題4	文にあう絵は?	49
問題5	お話にあう絵は?	54
問題6	みんなにきいてみよう	60
問題7	どうすればいいかな?	66

児童英検の基礎知識	71
各グレードの出題内容	

問題のこたえと問題文	74
------------	----

●財団法人 日本英語検定協会
英語に親しみや興味・関心をもたせ、
英語でのコミュニケーションを
楽しめる児童の育成を目的とした
「児童英検」を主催する財団法人。

●笠木えりあ
アルクKiddy CAT英語教室講師、
神奈川県鎌倉市にて、
「E English School」主宰。

●牧 菜穂
アルクKiddy CAT英語教室講師。
鹿児島県鹿児島市にて、
「こどもクラブ」主宰。

はじめに

子どもの成長を後押ししてくれる 育成型のテスト

「児童英検」は、英語を学習する児童に身につけてほしい力のひとつである「リスニング力」を問題形式にとり入れたテストです。身近な話題や状況を問題にしているので、児童は興味をもって受けることができます。レベルは全部で3つあり、本書はなかでもとくに英語学習初期にあたる児童が受ける「BRONZE(ブロンズ)」に的をしぼり、身近な語彙やごく基本的な日常会話を理解しながら、それらに必要なリスニング力を強化し、試験の形式や解答方法に慣れることを目的としました。本書を上手に活用しながらテスト形式に慣れていけば、本番のテストにはスムーズに、そして楽しく挑戦できることと思います。

私は児童英語教育に携わりながら多くの児童との「はじめての英語との出会い」を経験してきました。子どもたちは英語のもつ独特のリズム、あいさつから始まり、自分の好きなものや嫌いなものなどが表現できるまで、とひとつひとつゆっくりですが、確実に階段を上がっていきます。児童英検はその階段をもうひとつヨイショと上に引き上げてくれるまさに育成型のテストと言えるでしょう。

ブロンズを受ける児童たちは、はじめてのテストとあって緊張しながら真剣にとりくみます。しかし、受けた後、子どもたちははじめて受けて「できた」テストの喜びと達成感を味わい、英語に対する自信をつけ、そこからさらにもっと挑戦してみたいといった意欲を見せます。

また「児童英検」は合否のないタイプのテストですので、その結果がさらに子どもたちに前向きなとりくみを促してくれます。保護者の方や先生方は、がんばった結果を子どもと一緒に見て、たくさんほめてあげてください。励ましの言葉がけが子どもたちの心にぐんぐん入っていきます。うんうん、と強くうなずく横顔を何人も見ていると児童英検を上手に活用すればこんなにもモチベーションが上がるのだ、ということを実感します。



笠木えりあ

1994年より、幼児から高校生までを指導。ことばは心の鏡、をモットーに子どもたちにその素敵な「心」を伝える英語力を身につけるよう指導している。

英語学習は聞いて話す、読んで書く、といった4技法をバランスよくきちんと積み上げていってはじめて形になる地道な学習です。とりわけ児童の場合は文法よりもまず英語の耳を鍛え、簡単なフレーズや身近な単語を自分の言葉として表現できるよう何度も声に出して継続的に学習するのがよいでしょう。その学習の延長上に児童英検をとり入れることでさらに学習意欲が高まったり、聞きとれたという自信が次へのチャレンジにつながったり、漫然としていた学習目標が一人ひとりにはっきりと見えてきます。できる喜び、わかる楽しさ。その気持ちこそが大切です。ほめられ、認められること。ゴールに向かって何度もチャレンジができること。児童英検は子どもたちの心にたくさんのエールを送ってくれる素敵な教材です。さまざまな英語学習のなかで最も楽しいスパイスのひとつになるよう賢く活用していきましょう。

児童英検の基礎知識(1)

1. グレードは3つ

「BRONZE」、「SILVER」、「GOLD」の3つに分かれており、児童の年齢や英語学習歴によって選ぶことができる。(各グレードの対象受験者のめやすは6、71ページを参照)

2. テスト結果は合否をつけない

テスト結果は正答率で評価され、80パーセントを境に「次のグレードへ進む」か「同じグレードに再チャレンジする」かのおおよその判断基準となる。児童には、この正答率を山登りに例えてイラストとともに記載したレポートカードと、英語で書かれた成績証明書が渡される。



レポートカードの見本。ブロンズからゴールドまでの道を山登りに例えた絵の中に、位置が示されるため、自分がいまどの段階にいるのがわかりやすい。

提供：(財)日本英語検定協会

3. グループか個人で受験できる

日本英語検定協会に「グループ会場実施登録」をしている英語教室などのグループが実施するグループ会場受験、もしくは全国主要都市でおこなわれている公開会場受験のふたつがある。

4. 試験は年に3回実施

6月、10月、1月の年3回おこなわれている(月がずれる場合もある)。

児童英検「ブロンズ」受験に向けて

1. 英語教室でのとりくみについて

●ブロンズ受験をすすめる時期

受験時期のめやすは、音声による基本的な表現に慣れて、英語を聞いて発話することを楽しめるようになっていくかどうかで判断するといいでしょう。ちょうどその時期は、英語という新しい言葉に出会い、それぞれ自分とは違った個性の仲間と一緒に、リズムに乗って体を動かしながら学習が進んでいるころだと思います。

「間違ってもいいんだよ、やってみようよ、ほらできた」のようなクラスの雰囲気なかで、生徒がちゅうちょなく“I'll try!”と発話でき、先生が“Nice try!”とほめてあげられる、そんな機会をたくさんつくるようにしましょう。



牧 菜穂

1996年より、幼児から大人までを指導。ひらがなで語りかけるように、ことばを大切に共有する教室づくりを心がける

児童英検の基礎知識(2) ブロンズ受験対象者のめやす

- ・児童英検の受験がはじめての児童
- ・学習塾などでの学習経験が半年～1年以上
- ・小学校での英語活動での学習経験が1年半～2年以上
- ・音声による英語学習は経験しているが、まだ文字の学習経験がない児童
- ・家庭で英語学習をしている未就学児童

●レッスンでの対策方法

先生は試験の内容や形式を把握し、試験内容がレッスン内容自体に組み込まれるよう工夫をしましょう。限られたレッスン時間のなかで、たとえば開始前の入り口のドアで、絵を見せながら試験の出題形式のスリーヒントクイズに答えて入室させたり、終わりのあいさつの前に、よく使う基本的な表現のやりとりの定着を確認したりと、レッスン内容をふくらませて対策とします。

また、ひとつひとつのテーマを導入し定着させるために、先生対生徒全員でのやりとり、生徒をふたつのグループに分けてグループ同士でのやりとり、ペアでのやりとりと、生徒がより多く発話できる場面をつくるように心がけるとよいですね。受験する生徒の保護者には、ニュースレター等で

教室の受験の趣旨をご理解いただき、教材の内容に沿った、英語を聞いてまねて声に出す自宅学習の内容と必要性を伝えておきましょう。生徒の継続する学習を応援してもらえるような連携をはかっておくことも大切です。

2. 家庭でのとりくみについて

●聞いて声に出す学習を

ご家庭で英語学習をおこなう場合も、Bronzを受験する時期の子どもには、英語を聞いてまねて発話する学習をたっぷりとり入れましょう。毎日の日常生活に、学習の場が自然とできているのが理想です。お子さんとよく過ごす部屋の一部に「英語コーナー」をつくり、学習を助けるための「視聴覚教材」を置き、いつでも英語にふれることができる環境を。そして、続けて力になるための「英語の時間」をつくりましょう。

家庭でできる3つの方法

- 1) 日常的に英語にふれる環境づくり
- 2) 音声付きの教材を活用
- 3) 決まった時間を「英語タイム」に

英語コーナーには、お子さんがいつでもとり出せるように、手の届くところにお気に入りの絵本や教材を置き、大好きな場所をつくりましょう。

Bronzは子どもの生活状況に合った身近な基本的な表現が幅広く出題されるので、ポイントを聞きとる力をつけるために、絵と音声为一体となった教材がおすすめです。絵じてんや絵カード、DVD等の視聴覚教材の活用が効果的です。

a banana/eat a banana、school/go to schoolのように、単語だけでなく状況のわかる動詞句やフレーズが載ったものを選び、音に合わせて動作をしながら活用しましょう。英語を聞いて絵を指さすゲームや、動詞句やフレーズに合わせて動作をしたり、動作からフレーズをあてたりするなど、体を動かしながらかきないゲームへと展開すると楽しく学習できます。家庭での1日は、朝起きてから眠るまでのたくさんの方の初歩的な英語のやりとりに変えることができます。

ごはんやおやつ、お風呂やおやすみ前の時間など、お子さんと共有する時間のなかで、お子さんが安心して英語学習を楽しんでいけるように、毎日10分程度の学習の小さな積み重ねを見守り、応援してあげてくださいね。

このドリルを児童英検に役立てるには

笠木えりあ

1. 学習環境の整えかた

●やりたい気持ちを尊重しながら、学習環境にも配慮を

ドリルは無理せず、子どもが「やりたい」という気持ちがあるときに進めていきましょう。決して強制しないことです。そして、いきなり問題に取り組むのではなくまず問題をよく読み、答えはどこに記入するのか要領を確認しながら、丁寧に説明してあげてください。

音声のみで進めていくことに慣れるためにも、途中でおしゃべりしたり気が散ったりして集中できない環境にならないよう、騒音などに気をつけることも大切ですね。机の上のものなど余計なものはかたずけるなどしてまわりの状況に気を配りましょう。

2. 「たんごじてん」の活用のしかた

●名詞、動詞、形容詞を15のカテゴリーで紹介

子どもにとって身近な、食べものや身のまわりのものなどを15のカテゴリーにまとめてあります。CDを活用しながら一緒に声に出してリピートしたり、聞こえた単語を指さしたり、絵と音声との両方から目と耳を同時に使ってインプット・アウトプットしていくといいでしょう。

さらにこのページでは、日本語をもとに意味を確認できるので、子どもがひとりで学習することができます。英語の文字に慣れていない段階でも、絵と合致する丸数字の英単語を見ながら、一文字目の音を頼りに読むことにトライしてもいいですね。

これらの単語は児童英検のブロンズの内容になるべく近いごく基本となる単語をまとめていますが、すべてを網羅してはいません。活用するときは、部屋や教室を見渡して、本書にないものを探すなどのアクティビティを取り入れれば、さらに語彙を増やすことができ、楽しく学習できるでしょう。試験近くになったら、苦手なカテゴリーだけを確認していくと、弱点が克服できて自信がもてます。



英単語とその意味をあらわす日本語は、絵と合致する丸数字をふって表記しています。

3. 「会話じてん」の活用のしかた

●日常生活でも基本的な会話の練習を

まずは、絵を見ながら状況を確認しつつ、CDの英語をリピートして定着をはかります。発話の意味がしっかり理解でき、口慣らしができたなら、それぞれの場面の登場人物になったつもりでロールプレイをしたり、CDを一度止めてその投げかけられた言葉に対して答えを言ったりしてみましょう。また絵だけを見て、どんな会話が行われているかを答えたり、レッスンや日常生活で同じ場面になったらその会話をしてみたい、常に実際の生活のなかで使うような、発展的なアクティビティを多くおこなうといいでしょう。絵の表情から、どんな気持ちで登場人物が会話しているのかを読みとることも大切です。子どもたちの心の表現力を豊かにすることも忘れずに……。



基本的な会話の一部を掲載。
似た場面を想定し、表現の幅を広げるなどの活用を

4. 練習問題の活用のしかた

●1日1見開きをめやすに、できれば数回学習を

先生や保護者の方は、まず各問題の最初のページで、問題の傾向などを確認しておきます。実際に子どもに解かせる場合は、1日1見開きをめやすに、できれば①から順に進めると、本番と同様の形式を踏んでいるので雰囲気がつかめるでしょう。問題の形式が変わるときは、CDを止め、解き方の要領を確認する作業を子どもと一緒にしてください。答え合わせをするときにも、もう一度CDを聞きながら正解を導くようにすれば、2度学習ができます。その際「わかる」「できた」といった達成感を育てるため、どんな場合も大いにほめ、励まします。わからない場合は問題に印をつけておき、日をおいて定着を図ってみるといいでしょう。



間違えた箇所はチェックしておき、関連する語彙や表現は試験前に確認しておきましょう